



拓(ひらく)

関西合同労働組合
教 宣 部

〒653-0021

神戸市長田区梅ヶ香町2-5-2

電話 078-652-8847

FAX 078-652-8848

第132号 2023・11・20

ホームページ: <http://www.kangodounion.org/>

Eメール: hyogounion@k8.dion.ne.jp

8・11拡大執行委員会 ・討論バネに組織拡大を！

8月11日西宮勤労会館に於いて、関西合同労働組合は2023年度第1回執行委員会を拡大形式で開催しました。参加者は執行委員と組合員、サポート組合員合わせて12名で今後の組合の在り方について討論しました。

参加した組合員の意見の中から、組合の現状を良く理解した上で建設的な提案をしてもらったと感じました。

参加者からの意見

「関西合同労働組合は思想的にしっかりしているが、先細り感は否めない、建交労は6~7000円組合費を取っている、組合費を上げざるを得ないのではないか」「何らかの事業の立ち上げも考えるべき」(神戸地域分会)

「一人でストライキもやった、じわじわと成果につながったが、職場での理解は得られないまま定年退職となった」(阪神地域分会)

「他のユニオンとの合同を考えてはどうか」(サポート組合員)

「ヤマト労連(御用組合)とは違う、賃金差別もありなかなか賃金

は上がらないが、「ユニオン」とウチとで頑張っている。地道にやってきたことが正しかったと思う。(関西合同労組という)後ろ盾は必要で企業内組合でいいということではない」「物流業界の2024年問題に対する取り組みが必要」(神戸ヤマト分会)

「管理職ユニオンは組合費一律4000円、組合費を上げるのは大変なことだが」「争議の時組合員が一人増えた、見える活動をやっているだけでも大変な時に組合に入ってくる。あらためてオーソドックスにやっていくこと



が大切」（細見鉄工分会）

「物言う組合がつぶされて事故（労災）が増えている。なかまユニオンや連帯ユニオンゼネラル支部では労働相談が増えている、（有期雇用から無期転換の）5年ルールの再更新時期で増えている。労働相談は今からが必要、それをやり切る中で（財政問題などの）しんどい問題も解決していく」（高崎執行委員）

「外国人労働者、技能実習生には労基法が適用されず、時給400円くらいで25.8万人もの人達が働かされている。この現実を見据え、連帯して資本家階級の攻撃を押し返していく闘いに挑戦すべき」（米村執行委員）

みなさん貴重なご意見ありがとうございました。

1・28旗開き・春闘討論集会 に結集しよう！

労働組合、その中でも私たち関西合同労働組合のような個人加盟形式のユニオンが今こそ末組織の労働者にとって必要であることが共通認識できたと思います。執行部として、この意見を真摯に受け止め財政改

善、組織化の闘いに挑戦します。少しずつではありますが財政改善の取り組みも始めています。滋賀支部、兵庫支部の労働相談テントも継続して行います。機関紙「拓」とホームページの改革、充実にも一層力を入れていきます。現在、ホームページを見た労働者が組合に加入し、団体交渉を闘う決意を固めています。その他の労働相談も増え始めています。

組合員、サポート組合員のみなさん。拡大執行委員会とは1回きりで終わりではありません。毎月行われている執行委員会に出席し、意見を述べることはこれからも大歓迎です（執行委員会の開催日程は「拓」にてお知らせします）、そして我と思わん方はこれからの関西合同労働組合の発展のために執行委員となってください。

8・11拡大執行委員会の成功から、今秋ウクライナ・パレスチナ反戦、反弾圧、反原発沖縄、狭山などを闘い、年末一時金闘争、24春闘へと繋げていきましょう！2024年1月28日には新年旗開き・春闘討論集会を西宮勤労会館にて開催します。ここに組合員、サポート組合員のみなさんの結集と活発な討論をお願い致します。（本部 佐々木）

イスラエルはパレスチナ人民の虐殺をやめろ！



イスラエル軍は11月11日、ガザ地区最大の医療機関シファ病院（民間人の患者が居る）に「病院地下にハマスが司令部を設けている」として攻撃しました。

この戦争は10月7日に開始された、イスラエルによるガザ地区支配に対する、パレスチナ人民のやむにやまれぬ抵抗「アルアクサ洪水作戦」への「報復」として始められたものです。

パレスチナ人民の犠牲者は既に1万人にのぼっています。4割は子どもたちです。イスラエル軍はパレスチナ人民虐殺をやめろ！直ちに攻撃を中止し、和平交渉を行え！

職場からの通信

大阪支部・大豊運輸倉庫分会

＜特別給差別支給問題＞を巡って裁判闘争（大阪地裁岸和田支部）は9月14日第4回、10月10日第5回弁論が行われ、裁判所は弁論は尽くされたと、次回11月13日に和解案の提示を行うとした。「償却制」労働者（組合員3名を含む）のみに一時金時の特別給を会社が支払わなかった事件について。会社側は支払いの労使同意がないというのみで、会長通達での全社員への恒常的支払い表明について否定することはできなかった。組合側は非組合員の支給明細書も証拠として出し、いくつかの判例をしめし、要求根拠の正当性を主張した。勝利解決を確信しているが安心はできない。注目を！

兵庫支部・Sエンジニア争議

◆内容が、＜28年間まじめに働いてきた技術者が、業務成績不良で解雇通告＞という無茶ぶりの内容の案件であった。業務成績不良の普通解雇は初めての経験であった。

過去の判例を調べると、

- ①客観的合理的な基準によるべきこと
- ②解雇理由該当事実が解雇をもって臨まねばならないほどに、質的量的に重大であること



- ③改善指導し、努力反省の機会を与えたのに改善がなされなかったどうか
- ④指導による改善可能性が見込めないかどうか
- ⑤職場規律に重大な影響を与えたり業務遂行に重大な支障を与えたかどうか
- ⑥会社側に落ち度がなかったかどうか
- ⑦別な違法な解雇事由が存在しないこと

等の判断基準がある（ブルームバークエルピー事件・東京高裁H25・4・24、昭和電線電纜事件・横浜地裁川崎支部H16・5・28等）。

◆組合としては、解雇撤回・職場復帰を最後まで迫及したが、裁判・争議になると生活や家族問題等でかなり難しいということで、最後は和解となった。

親会社の工場構内へ入っての下請け作業が「偽装請負」状態であったことや、長時間労働とサービス残業と36協定上限違反の問題を、親会社の責任迫及も絡ませながら粘り強く団体交渉を行った。何よりも、当該本人が、成績不良などあるはずがないということを精一杯立証する、報告書や証拠をもとに、団交を攻勢的に進めることができた。4回の団体交渉、12回の本人との会議、会社はサービス残業等については、謝罪し、全額支払ってきた。しかし、解雇撤回までには至らず、和解（円満退職）解決となった。本人の納得のいく解決だった。

◆当該は、会社非常に貢献しており、会社は上記7つの指標をクリアしていない。どうも当該の働いていた部門のリストラであろうと推測できるのだが、立証は難しかった。闘いは本人の価値観・人生観を大きく変えたようだ。本人の総括を読んで下さい。（次頁に当該・Sさんの総括を掲載）

28年間の会社生活の反省と将来に向けて

の、結局は解決策を見出すことは出来なかったもので、詰まるところ自分

1. 社会人として足りなかったもの

～ 反省

■ 先ずは、これからの人生の為に過去の会社生活を振り返り、自分への戒めの意味を込めて、自身の考え方や行動について反省をしたいと思います。

会社に入社して28年間、真摯に仕事に取り組んできた事、過去に成果や実績を上げた事に対する成功体験が有ったせいか、幾つもの壁や新たな仕事に取り組まざるを得ない状況に直面しても、なんとか成し遂げられれば、徐々に自分の職場環境も改善していくだろうといった、心の隅にどこか楽観的な、或いは他力本願的な思い込みを持っていました。

■ ただただ、毎日を真面目に仕事に取り組みさえすれば、上司から評価され、同僚からも頼られる存在になると信じて仕事に取り組んでいました。

■ この考え方は、会社からの解雇通告の書面を目の当たりにする寸前まで持っていたので、まだ自分を必要としてくれるという思い込みや、何とか異動先を探してくれるだろうといった期待や甘えを心の中に持っていました。

■ それはまるで、宮沢賢治の「注文の多い料理店」の話の様に、危機的な状況に際しても自分に都合の良い様に解釈しようとし、困難に立ち向かうことなく、いつも逃げ腰

になっていたからだと思います。

その様な考え方になってしまったのは、誰に相談することも無く、自分一人で悩んでみたもの



は正しい筈なので、相手のせいにすれば良いという思考回路になっていました。

■ 一方で、会社の中で生き続けるには、理不尽な事が有っても大人しく仕事をし、不平不満を言わないのが当然という空気が有りましたが、自分は絶えず納得出来ない思いを持っていましたので、その気持ちが周りに伝わり、上司から疎ましくされていた様に思います。

■ 結果、自分一人では悪循環となってしまった状況を打開することも出来ず、追い込まれて、仕事に対する自信も喪失することになりました。

2. 組合の方々への出会いと感謝

■ 冒頭で申し上げた様に会社から退職通知を提示されて、初めて労働組合にお世話になりました。それまでは仕事の悩みや苦しみは自分で解決するものだと思っていましたし、会社にとどまり続けるにはそれしか選択肢は有りませんでした。

■ 何度も組合での打ち合わせにて業務経歴等を聞いて頂くうちに、会社側に問題があった事を知ることができ、また労働者の権利について学ぶことが出来ました。

■ また、これまで一人で抱え込んでいた悩みを組合の方々に聞いていただくことで、自分だけを責めていた事柄について、様々な角度からもう一度考え直す機会を頂きました。

■ そして、最後には会社からの謝罪の言葉を貰ったことで、社会人としての尊厳を取り戻すことが出来た様に思います。

■ 当初、会社と交渉することに対して不安を抱いていた時に、組合の方から「会社と話し合えるのは、今しかないし、しなければ、絶対後悔するよ」と言われて背中を押して頂きました。今になって本当の意味を

理解することが出来ました。

■今後の再就職に際して、自分が至らなかったことは反省し、次に生かすことは当然だと思いますが、この先の仕事や人生について前向きに歩むことが出来る様に思います。最後になりますが、組合の方々に色々ご

尽力頂きましたことに対し、改めて感謝を申し上げます。 以上

2023年11月3日 T・S

兵庫支部・レモジャパン分会

昨年は在宅ワークの自宅勤務（神戸）にもかかわらず、会社が「就労場所：滋賀工場」の契約書を送ってきた。弁護士が10年前の病気療養に対し賃金2割カットしてきたのは、「（契約書に印鑑ついたから）合法だ」との言い草に、“同じ痛い目にあいたくない”と断固押印を拒否した。会社の手違いで2種の契約書を送信していたこともあった。今年は会社も折れて、「就労場所：自宅」の契約書を送ってきた。年末春闘で、インフレ手当（1万／月）の継続ないしは、4%6,600円のベアを要求

しています。

兵庫支部・SP不動産会社

＜新規相談＞「1日295件のテレアポ（電話勧誘）を行え」なるパワハラ業務命令を行ってきた。当該はトイレで嘔吐し、“うつ状態”と診断された。組合に加入し労災の申請・未払い賃金の支払い・パワハラの謝罪とルール作りを要求し、団体交渉を求めている。未払い賃金は労基への申告や少額訴訟も含めて考えている。

兵庫支部・摂津分会

11月8日に年末一時金要求書を提出した。要求内容は基本給×2ヶ月+10万円の年末一時金要求と組合掲示板の設置です。一時金については、昨今の物価高騰を補てんできる額を獲得し、組合掲示板は1995年の分会結成以来の要求ですが、会社は未だかたくなに認めようとしません。何としても獲得するべく団体交渉を闘います。

滋賀支部・労働相談テント開催

9月17日11時から15時まで、関西合同労組滋賀支部は、琵琶湖ユニオン、連帯ユニオンゼネラル支部、きょうとユニオンと4者共催で近江八幡駅南口イオン前で、

労働相談会をおこなった。参加者は琵琶湖ユニオンは稲森書記長、連帯ユニオンゼネラル支部はM組合員とN組合員、きょうとユニオンはT組合員とサポート会員のNさん。関西合同労組はY組合員と塚本執行委員の計7人の参加で、いつもよりは少ない参加者だったが相談



は1件あり、隣家とのトラブルで行政に相談しても、まったく動いてくれないという話で、アドバイスをした。今回は事前に新聞は載せてくれなかった。ビラはポスティングを含めて1500枚撒いた。今回も参加者の交流は深めた。相談会の後、狭山市民の会しがの街宣を、近江八幡駅南口でおこなった。暑い1日だった。



9・30兵庫たたかう仲間の集会

9月30日神戸市中央区文化センターにおいて、2023兵庫たたかう仲間の集会が開催されました。

冒頭、連帯労組関生支部の職場である高槻TYK生コンで強行された、大阪広域生コン協同組合幹部らによる生コン・プラントの破壊の様子がビデオ上映されました。

主催者あいさつとして集会実行委員長である全港湾の藤岡さんが「大增税と賃金低下、社会保障は最低、雇用労働者の内半数近くが非正規雇用と言う状況に置かれている」とした上で「ABCマートでの一人のストライキが5000人の賃金を引き上げた。そごう・西武でも職場を守るストライキが闘われた」と労働運動・ストライキが復権し始めているとあいさつ。

職場からの報告

職場から闘いの報告、全港湾神戸支部車両部会から、企業間の過当競争によりドライバー労働者は低賃金に置かれている、現場労働者の団結こそ必要と高速バスターミナルでのビラ配布の寸劇を交えて報告しました。

いたみ指導員労組から、独立して単独の



労組を立ち上げたこと、雇止め解雇撤回の勝利報告がなされました。郵政労働者ユニオンから労働契約法20条裁判、灘支部のタスキ裁判の現状報告、大阪東郵便局でのパワハラ裁判の勝利的和解、組織化に成功したことが報告されました。連帯労組関生支部からこれまでの弾圧の経過と現状がどんなであるかを生々しい報告がありました。

記念講演として毎日新聞記者の東海林智（とうかいりんさとし）さんは、そごう・西武のストライキの実態を、このストライキに対して他の百貨店労組や利用客たちが協力的だったこと、本部であるUAゼンセンが一切前面に出てこなかったことなどを解説され、労働運動はストライキを背景にしなければ成り立たないことを説かれました。

また、相模鉄道、首都圏青年ユニオンのストライキを例にストライキが日本でも復権しつつあることや、公務員職場での会計年度任用職員が公務員であることを理由に最低賃金、雇用保険の適用を除外され、無権利状態に置かれていることも解説されました。

集会のまとめとして神戸地区労議長の藤本さんが発言し、最後に武庫川ユニオン塚原書記長の音頭で「鉄の労働者」の合唱、団結がんばろうで集会は締められました。

10・7日韓建設労働者総決起集会

集会に参加するまで、こんなに酷いと思ってなかった。日本では、関西生コン支部に対して「反社（反社会勢力）」キャンペーンを行い、産業別労働運動の破壊を資本・ヘイト・警察・裁判所が一体となって行ってきたが、韓国では、ユン大統領自らが「建暴（建設現場の暴力集団）」の造語を作り、「強行労組の弊害終わらせなければ、大韓民国の若者の未来はない」と建設労組への大弾圧に踏み切っている。

メーデー直前、江原（カンウオン）建設支部第3支隊長ヤン・フェドン氏がガソリンかぶって抗議の焼身自殺をおこなった。なんという激しい闘いか。

パネルディスカッションでソン・チャンブ建設労組副委員長は、「名ばかり事業主」の建設労働者の苦しい長い闘い・組織化の末、何度も建設現場を止める闘いで、勝ち取ってきた成果を、大統領自らが「建暴」といい、本部支部に20回も家宅捜査に入り、3億近い課徴金を課せられ、2000人近い仲間が出頭・取り調べを受け、正当な労組の闘いを「ゆすり・たかり」と言われた。ヤン・フェドン烈士のくやしき・遺志受け継いで闘う。国際連帯ではね返そうと訴えた。

フォーラム平和人権環境の藤本さんは、



戦前戦後の歴史を振り返り、憲法よりも労働法が先に生まれた意味を強調した。

永嶋弁護士は、今日との裁判で会社側証人は、ピストル構えて撃たれる状況で、要求を拒否できなかった、ピストルがストに変わっただけと証言した。判決読むと、労組が企業に執拗かつ継続的に圧力かけた、これは犯罪だと読める。労働組合は何のためか、法律は最低限しか言わない、そこから先を取って行くのが労働組合だ。この先で組合は暴力団よりたち悪い存在とされるのか。労働組合やストがそこらじゅうに起これば、「反社」などと言えない。警察・資本も当たり前「労働組合＝反社」を通そうとしている。これと闘うのが労働運動だ、日韓連帯に敬意を送りますと激励。

最後に、湯川委員長は、自分の命までかけてこんなことするんだということがなかなか理解できなかった。が、そこまでしないと今の世の中ダメじゃないのか、私も命かけて闘わなあかん気持ちにさせられた。敵の攻撃は必ず破綻する、みなさんと共に必ずはね返す、と決意を述べた。

関生弾圧との闘いの、現代社会的意味、国際連帯の意味をあらためて突きつけられた。

連帯ユニオン関生支部への弾圧をはねかえし、 労働者の団結、労働組合をつくろう！

11月10日、神戸市中央区文化センターで労働組合つぶしを許さない兵庫の会・第4回総会が開かれた。

司会を全港湾・前田さん、呼びかけ人を代表して岩佐卓也さん（専修大学教授）、来賓あいさつとして、平和フォーラムの森哲二さんがおこないました。その後、議事に入り活動経過、会計決算報告、活動方針案が細川雅弘さん、塚原久雄さんから提案され会場の拍手で採択された。2部として、記念講演「労使関係の転換で何が問われているのか」と題して、吉田美喜夫さん（立命館大学名誉教授）から、関西生コン支部・松村さんからの報告。最後に全港湾神戸支部委員長の碓氷良介さんから「まとめ」と「団結ガンバロー」で締めくくった。

岩佐さんは、世界で多くのストライキが闘われている。関生支部への弾圧をはねかえし、「労働者は闘うのがあたり前、ストするのがあたり前の社会にしていこう」と呼びかけた。森さんは、兵庫の会をつくった経緯にふれた後、イスラエルのガサ侵攻に反対し「ガサへの攻撃をやめよ」「パレスチナに平和を」スタンディング行動を提起した。活動報告では11月25日の第3回総会以降、元旦闘争、労働組合つぶしを許さない集会・デモ、裁判闘争、映画「ここから」上映会等が報告された。

吉田さんの講演は、関生支部の進めている労働運動・産業別労働組合・一人でも入れるユニオン・中小企業と連帯する労働組合・辺野古新基地建設反対する組合を解体することを意図している。そして、関生支部労働運動が点から面へ発展することを政権は恐れている。憲法28条は、労働3権が保障されている。しかし、日本の労働法

学会は、2つの考え方がある。関生支部弾圧の背景になっている考え方には、団体交渉権を中心にしてその下での

団結権、争議権がある。団体交渉権を中心に考えると、組合員のいないところで闘うことはできない。これは企業別組合の主流をモデルにした考え方であり、闘うことができない。もう一つは、団結権を中心にして争議権、団体交渉権があるというもの。考え方が違うと政治的な目的でストライキをする場合、例えば労働者派遣法反対とか、労基法改悪反対などは認められないことになる。しかし、団結権を中心にして考えると適法となる。関生支部への弾圧は、刑事裁判として扱うのではなく、労働裁判としてみるべきだ。労働組合つぶしを許さない、新しい労働組合をつくっていきましょう。

関生支部の松村さんは、弾圧をはね返してストライキで闘う労働組合、物言う労働者、行動を起こす労働者として共に闘っていく決意を述べた。



吉田美喜夫さん



連帯労組関生支部松村さん

「沖縄を再び戦場にさせない」 11・23県民平和大集会 沖縄-全国で

11月沖縄県民平和大会にむけ、山城博治さん（沖縄を再び戦場にさせない県民の会）が全国を回り、「沖縄を再び戦場（いくさ場）にさせない。若者を戦争で死なせない」「ミサイルより対話、平和外交を」と訴えている。要旨を紹介する（「1000人委員会・ひょうご」集会）。

山城博治さんが訴える

なぜ「県民の会」を立ち上げたか。昨年12月の「安保3文書」を見て驚愕した。私たちの南西諸島の島々が、戦場になる。若者たちにも呼びかけ、2月、5月と9月にキックオフ集会を行った。若い世代も集まったが、「思いは一緒。だけど、なかなか入れない」「ハンタイ！団結ガンバロー！と、怒り渦巻く世界に入っていけない」「もっと若者が入れるように」という声が出された。

それから「争うよりも愛したい」という言葉に。根っこにあるのは平和、愛、共に支えあうこと。沖縄のラップ歌手Rude-α

（ルードアルファ）が歌う「うむい」の歌詞にある。集会チラシは、若い世代が作った。今、「台湾有事」が叫ばれ、日本が戦争するという流れがある。その流れをどう止めるか。

玉城知事は、辺野古新基地建設の設計変更申請は認めない態度を示した。しかし裁判所も、理由も示さず「国が正しい」「辺野古が唯一」と言う。県民の民意ははっきりしているが、「最高裁判決には従わなければ」という意見もある。知事は、やわらかい言葉で「判断するには時間が足りない」とした。県議会で保守系議員から問責決議案も提出された。沖縄の米軍基地は「銃剣とブルドーザー」でつくられたが、今度は日本政府がやるのか。三権（立法・行政・司法）が沖縄に襲いかかっている。

戦争で若者たちが殺される

今年4月、自衛隊ヘリが墜落事故。熊本8師団長らが死亡した。師団長自ら、なぜ宮古を視察したのか。戦争になれば、沖縄も九州もない。米軍は、台湾有事と言いながら沖縄の基地から撤退している。実際に戦うのは自衛隊と「安保3文書」に、はっきり書いている。沖縄の島々からミサイル攻撃をする。当然、反撃される。米軍は、オスプレイで島々を移動する。そういう日米共同演習が行われている。戦争になれば自衛隊、日本の若者が死ぬ。

東南アジア、アセアン諸国は、日本のように中国と対立、緊張関係をつくらない外交を示している。「どちらにつくか」という選択をしない。日本だけがアメリカの言いなり、お先棒を担いでいる。戦



後78年たっても、アメリカから自立、独立もできない。軍拡予算でアメリカの兵器をどんどん買わされ、その兵器を使って戦争をするのか。

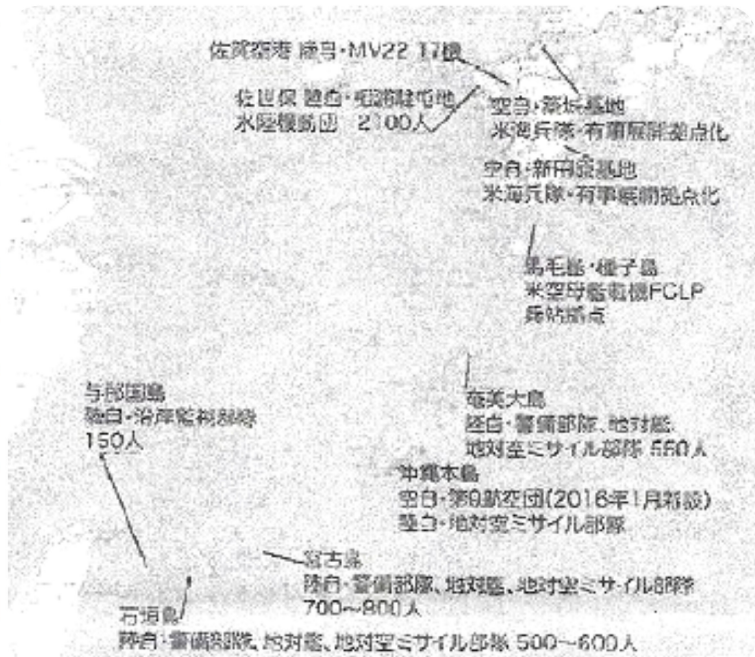
沖縄だけでなく、 全国で声を上げよう！

みなさんは、「戦争になるのは南西諸島、沖縄」「前の戦争も沖縄で終わった。自分たちは大丈夫だ」と思っていますか。

自衛隊の基地が、与那国にミサイルと150人配備されますが、石垣島にミサイル部隊500から600人、宮古島にミサイル部隊700から800人、沖縄本島にもミサイル部隊が配備されます。そして、奄美大島にもミサイル部隊550人、馬毛島にも米空母艦載機・訓練基地が、九州に渡って新田原基地に米海兵隊・有事展開拠点化、さらに福岡にいて築城基地に米海兵隊・有事展開拠点化、佐賀空港にはMV22（オスプレイ）17機が配備、佐世保には水陸起動

えると九州全域が戦場になることが想定されています。

そして、岩国、広島が日本全土の在日米軍基地が動員されます。自衛隊の資料でそうなっています。マスコミも沖縄だけが戦場になると刷り込んでいますが、そうでしょうか、だまされてはなりません。米軍は後方に下って、前線に自衛隊が戦争をおこなうのです。その流れを、どう止めるかということです。

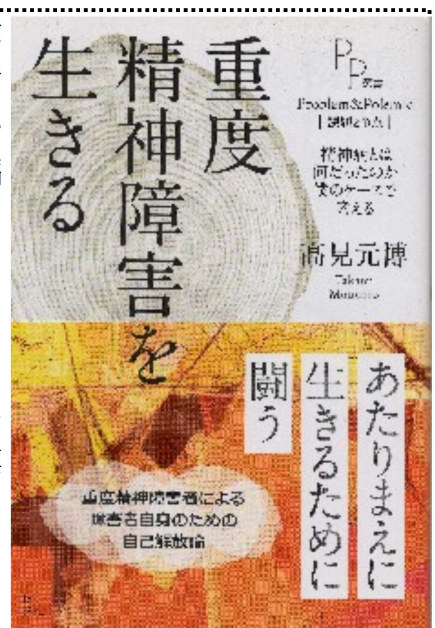


みなさん、11・23沖縄県民平和集会そして、全国各地で声をあげていきましょう。

本の紹介

今の日本の労働運動の低迷に比して欧米各国、アジア諸国では労働運動は高揚しています。私は今の自公政権、露骨に権力を振るい、差別を煽り、戦争に向かおうとする政治に対する反対運動の高揚こそが労働運動の再生に繋がると考えてきました。

著者も社会運動と労働運動の連帯が今こそ必要であると言いたかったのではないかと思います。「資本主義社会にとって資本の価値増殖の役にたたない者」（108ページ）として差別、抑圧されてきた障がい者解放運動と労働運動の連帯こそが求められていると言うことに改めて気づかされた。労働運動に携わる活動家のみならず、労働組合員のみなさんに是非ご一読を勧めます。



10・29秋の組合レクリエーション 妙見山でBBQを楽しむ



10月29日（日）に妙見山で関西合同労組と「ききたいつなげたい86ヒロシマを実行委員会」の合同レクリエーションを行いました。朝夕はちょっと肌寒い秋晴れの日、小学生の子ども2人を含めて全部で12人が集まりました。

川西能勢口駅から電車で25分、妙見口駅に到着。その後、色づいた木々や稲刈りを終えた田んぼなどを見ながらケーブルカー黒川駅まで歩きます。黒川駅では、大勢の人が乗車待ちをしています。3台ぐらい見送ってから、やっと乗車できました。ケーブルカーから見える紅葉も、もうちょっとという感じでしたが、綺麗でした。

このケーブルカーも、リフトもBBQ場も、すべて12月3日で廃止が決まっていて、最後の行楽をしに来ている人が多いようでした。

BBQ場の売店の人に「なん

で無くすのかな。こんなに盛況なのに」と言うと、「私らも残念に思っています」とのことでした。BBQ場には、どんぐりが落ちていて手芸が趣味のYさんは夢中で拾っていました。展望台からは、甲山や六甲山、街並み、大阪湾が見えています。

まずビールで乾杯して、飲みながら火起こしして、肉を焼きます。牛肉と鶏肉、それと野菜はどれもおいしかったです。ちょっと寒かったので差し入れの芋焼酎をお湯割りして飲みました。

最後には焼きそばも食べて腹いっぱいになりました。

3時半にBBQを終了して、皆で記念写真を撮って、お開きとなりました。

ケーブルカーの帰りの混雑は来るとき以上で、4台ぐらい見送って、やっと乗れました。妙見口駅から電車に乗る頃には、周りは薄暗くなっていました。楽しい秋の一日となり、交流も深めました。



11・3安田菜津紀さん講演 「紛争地、被災地に生きる人々の声～取材から見えてきたこと」

◆11月3日、9条改憲NO!市民アクション・滋賀主催の9条改憲を許さない!滋賀県民集会が栗東芸術文化会館・さきらであり、約180名が参加した。集会では、フォトジャーナリストの安田菜津紀さんが写真を見せながら約90分間講演された。

◆安田さんは、フォトジャーナリストについて、どんな理念どんな社会を未来に残せるのか、写真を通していろんな人が生きていることを伝えるのが仕事だが、大きなマスコミとの違いはどんな写真が伝えられるのかを自分で考えてやるところだと言われた。

◆フォトジャーナリストになったきっかけは、高校2年の時に、「国境なき子供たち」（教育支援をやる団体）から友情のレポーターとして、カンボジアに派遣され、内戦で破壊された社会システムのなかでの貧困で売り買いされる子供たちとの出会いがきっかけだった。その後大学の時も通い続けた国は、カンボジアとシリアだった。シリアの美しい景色の写真を見せながら、美しい国だった、当たり前前の日常があった。それがアラブの春から遅れて激しい内戦になった。シリアの避難民キャンプは6月頃、50℃を超える暑さになる。そこの人々は「私たちはウクライナほど関心を集めないのか、肌の色、目の色、宗教が違うからか」と言われた。ダマスカスの郊外で爆弾の直撃を受けた子供たちは長男は即死、弟は目を、妹は足を失った。幼い子供たちは菜津紀さんに日本に帰ったら、「私たち子供たち、何も悪いことしていない、こんなことやめてほしいと大きい人達に伝えてほしい」と言った。シリアでは三つ巴の内戦であり、爆撃にどんな勢力が関わっているのか子供

たちには分からないので「大きい人達」と言っている。

◆ガザの写真を見せながら、イスラエルによる占領と搾取、入植、圧倒的な力の不均衡がある、＜天井のない監獄＞と言われ、東京都23区の3分の2の土地に220万人が閉じ込められている、爆弾が雨あられと落ちまともに生きられない。菜津紀さんの友人は、生まれたばかりの子供を抱いて、南へ逃げたが、そこにも爆撃があり「希望を失っている」と連絡があったまま、その後取れなくなった。パレスチナの友人は「侵略に抵抗した人はウクライナでは英雄と言われるのに、ガザではテロリストと言われる」と国際社会のダブルスタンダードを問われた、ロシアに対しては制裁するがイスラエルは見過ごす、米、欧、日本も問われている。10月27日の即時停戦の国連決議に日本は棄権した。

◆最後は義理の両親が住んでおられた陸前高田の写真を見せられた。地震の当日はフィリピンにおられ、陸前高田は壊滅とニュースで聞いた、義母は亡くなられ、多くの国から支援を受けた、ガザの子供たちも支援を送ってくれた。仮設住宅に住んでいる人が、シリアの冬の話聞いて、服を送られた。恩を送るという話をされ、現在の日本の人権はどうか、憲法は捻じ曲げられている現状を見て、何とかしなければ、語り続けることはやめない、と言われた。



使用済み核燃料の行き場はない！ 発生源・原発の全廃に向けて 起死回生の大闘争を！

使用済み核燃料を保管する 燃料プールは満杯に近い

原発を運転すると、使用済み核燃料が発生しますが、使用済み核燃料は、発生直後には膨大な放射線と熱を発生しますから、燃料プールに水冷保管して、放射線と発熱の減少を待たなければなりません。

そのプールが、今、満杯になろうとしています。満杯になれば、原発を運転できなくなるために、全国の電力会社は、プールのリラッキングや、放射線量や発熱が減少した燃料を乾式中貯蔵に移すことによって、プールに空きを作り、原発の運転を継続しようとしています。

政府も乾式貯蔵に躍起です。燃料プールが満杯になって、原発が停止すれば、「第6次エネルギー基本計画」が謳う「2030年には原発電力の割合を22%」の実現が不可能になるからです。

新しい使用済み核燃料の入った 燃料プールは超危険

使用済み核燃料を保管するプール(右写真)は「むき出しの原子炉」とも呼ばれ、極めて脆弱です。とくに、発熱量や放射線量が膨大な新しい使用済み核燃料の入った燃料プールが崩壊すれば、大惨事に至ります。このことは、福島原発事故後、4号機のプールが冷却水を失って火災に至り、首都圏ま

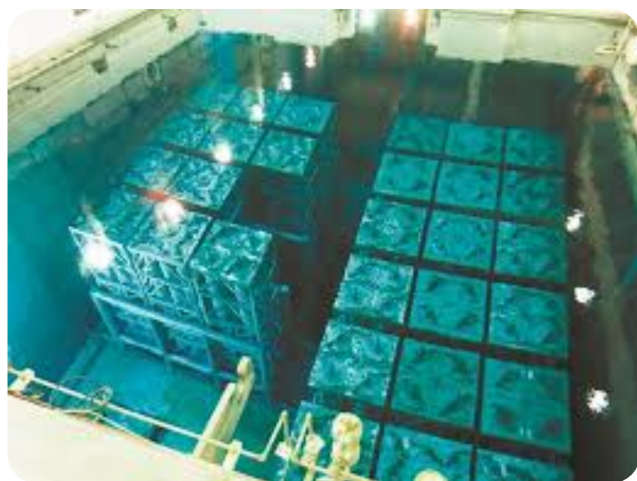
で壊滅的被害をこうむる危機にあった事実からも明らかです。

新しい使用済み核燃料の発生源・原発の稼働を許してはなりません。

関電、使用済み核燃料の原発敷地内 での乾式貯蔵に布石

関電が10月10日に発表した使用済み核燃料に関するロードマップによって、関電の使用済み核燃料をめぐる情勢は一転しました。このロードマップで、関電は、青森県の再処理工場の活用、中間貯蔵施設の確保を盛り込み、いかにも近々使用済み核燃料の福井県外搬出が可能であるかのように見せかけていますが、いずれも実現の可能性はありません。「絵に描いた餅」です。

それでも、関電は、使用済み核燃料搬出の円滑化のために原発構内に乾式貯蔵施設の設置を検討するとし、福井県内での乾式貯蔵に向けての布石を行いました。





東海第二原発の乾式キャスク

関電の燃料プールは4～7年後には満杯になって、原発を停止せざるを得なくなるため、プールに空きを作ろうとする関電の陰謀です。福井県知事は13日これを容認しています。「原発の運転継続ありき」の出来レースです。

何としても、関電と福井県に当初の約束「本年末までに使用済み核燃料の中間貯蔵地を福井県外に探す。探さなければ老朽原発を停止する」を履行させ、全ての老朽原発を廃炉に追い込まなければなりません。

12・3「とめよう！原発依存社会への暴走 1万人集会」に総結集を！

岸田政権は、5月に「原発推進関連法」を成立させ、「原発依存社会」に向かって暴走していますが、同法は未だ施行されてはいません。したがって、民衆の目に見え、耳に聞こえる行動の爆発によって、骨抜きに出来、実行不能に追い込むことも出来ます。

「老朽原発うごかすな！実行委員会」は、来る12月3日、大阪の「うつぼ公園」で、標記の「1万人集会」を開催し、老朽原発の運転をはじめ、原発推進に暴走する岸田政権や電力会社に「NO」を突き付けます。皆様のご支援、ご参加をお願いします。

老朽原発うごかすな！実行委員会
木原壯林（若狭の原発を考える会）

第14回ハナマダンあまがさき

11月5日秋晴れの暑いぐらいの陽気の中、第14回ハナマダンあまがさきが開催されました。去年はあいにくの天気だったため、今年はひときわ盛り上がった開催となりました。関西合同労働組合は今回も「ききたいつなげたい86ヒロシマを」実行委員会と共同で焼きそば屋台を出店しました。

朝鮮半島の平和的統一を願う市民のためのこの催しは、朝鮮学校の生徒たちの演奏、ダンスを始め、プロの歌手の歌ありでとても楽しいです。販売したビール、焼きそば共にほぼ完売、来年もがんばって取り組みたいと思っています。



組合員、サポート組合員、「拓」読者のみなさん、来年は是非遊びに来てください。一緒に焼きそば売りしましょう。



コラム
〈め（眼）メ（芽）〉 ⑱

秋刀魚(サンマ) がやせている

■秋の味覚で安く・美味しく庶民の味方だ。こどもの頃から親しんだ〈おかず〉だし、お酒のあてに最高。鳥取の境港から山をこえて岡山の県北の町にサンマを売りにくるトラックは秋の楽しみだった。サンマ漁は世界でも日本とロシアがやるぐらいだと聞く。大阪支部組合事務所の近くに住む友人は石巻出身。秋には毎年取れたての三陸沖の旬の秋刀魚が一箱届く。味は絶品だった。僕も戴き、事務所周辺の住民にもおすそ分けし喜ばれた。それが4年続きの不漁で途絶えてしまった。この間スーパーの値引きで数回食べるくらいだった。それでも一匹100円以下のものはなかった。

■不漁が続いている。豊漁だった10年前の10分の1程度。「秋口には、昨年比べて若干大きめのサンマが店頭。量が少し増えている、北海道や東北の沿岸に新たな漁場も現れ・・・」の報道。でも安くても一匹300

円、二匹550円以上。手が出ない。もう庶民の味ではない。200円になるという報道をみて近くのスーパーに行ったら一匹200円新鮮だがやせている。早速購入。焼いたが、ジュウジュウ感がでない。特有の油のうまさもなく、あの〈腹わた〉のうまさもなし。正直秋刀魚を食べた感はなかった。

■不漁の原因は黒潮の大蛇行による旧来の魚場の海水温の上昇が大きいらしい。全国のサンマの水揚げ量は、2008年の34万3225トンピークに年々減少しています。2015年からは減るペースが加速し、前年は1万7910トンと4年連続で過去最低。異常事態といっている。従来秋になると、サンマは親潮の冷たい水に乗って南下する。冷たい水を好んで南下、三陸沿岸まで移動。2019年ごろから、黒潮大蛇行の影響で蛇行した後の温かい海流が三陸沿岸に北上し、サンマは温まった三陸沿岸の海域を避けるように冷たい水のある沖合を南下したその結果、これまでの漁場ではサンマは採れず不漁につながっている、いまま大蛇行は続いている（分析は漁業情報サービスセンター）。またサンマが細くなったのは「エサが少ないこと」が原因といわれている。大蛇行もエサ不足も専門家もわからないという。



■秋刀魚はなにかを知らせてくれているのではないだろうか？森にいた動物たち（クマ、鹿、イノシシ、サル・・・）この間「人間」を「襲っている」と報道されるが。この社会のありよう、地球の変化＝気候変動を〈おかしいぞ！立ち上がれ！〉と知らせにきてくれているように思う。

宮崎

当面のスケジュール

- 11月20日（月）
第4回本部執行委員会
18時30分 西宮勤労会館
- 11月23日（木・休）
沖縄県民大会同時集会inおおさか 13時30分 西梅田公園
狭山事件の再審を求める尼崎市民の会23デー街宣
17時30分 JR尼崎駅北側 後狭山 キャラバン隊と交流会
18時30分 小田北生涯学習プラザ
- 11月28日（火）
おおさかユニオンネットワーク秋季行動
（+大阪広域協抗議行動）
Aコース 8時 全港湾大阪事務所
Bコース 8時15分 JR大阪駅西口
- 11月29日（水）
神戸ヤマト分会団体交渉
- 12月3日（日）
とめよう！原発依存社会への暴走1万人集会
13時 うつぼ公園
- 12月5日（火）
第1回おおさかユニオンネットワーク 狭山連続学習会
18時30分 エルおおさか603号室
＊第2回（12月19日）第3回（12月26日）（時間・場所同じ）
- 12月15日（金）
加茂生コン差戻し判決をどう見るか講演・討論会
18時30分 エルおおさか606号室
- 1月1日（月・休）
労働組合つぶしの弾圧をゆるさない実行委員会 元旦行動
10時 大阪府警本部前
- 1月28日（日）
関西合同労組旗開き春闘集会



編集後記

- ▼急に寒くなりましたね、気温が15度を下回ると体調を崩すリスクが高まるそうです。今年はインフルエンザも流行しています。防寒対策を万全に、元気に頑張りましょう。
- ▼いつものことながら編集作業は難航し

ました。タベあんまり寝てません。帰って半日ゆっくり休みたいです。

- ▼組合事務所に来ると、毎回Iさんが、美味しく、三里塚の野菜を使った栄養バランスバッチリの食事を安く作ってくれます。最近当たり前のようになっていますが、あらためて感謝申し上げます。
- ▼次号は新年号です。投稿お願いします。(S)